

## 「第4回 高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」活動報告

三浦 夕昇 (神戸市立葺合高等学校)

### 1. はじめに

兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)と公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、台北市立動物園の3機関による共催で行われる「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」が、2019年8月に開催されました。今年で4回目になります。

このツアーは、次世代を担う高校生が海外の自然環境に触れることで、自然科学分野での視野を広げるとともに、現地の高校生との交流により、国際的な感覚を身につけることを目的として企画されたものです。

ここでは、本ツアーの中で参加高校生の印象に残った活動内容について、ご紹介します。

### 2. 概要

(1) 日 程：2019年8月2日(金)から8月8日(木) 6泊7日

(2) 場 所：台北市立動物園内各所、東眼山自然教育センター、関渡水岸自然公園

(3) 参加者：日本の高校生20名(兵庫8名、大阪4名、奈良2名、和歌山2名、京都1名、岡山1名、東京1名、群馬1名)と台湾の高校生20人のほか、兵庫県立人と自然の博物館ならびに台北市立動物園の研究者、国際花と緑の博覧会記念協会ならびに同動物園スタッフ、看護師約15人

(4) 内 容：日本および台湾からの参加高校生に対し、兵庫県立人と自然の博物館の研究者(4名)と台北市立動物園の研究者・スタッフ(4名)計8名が同行しました。具体的には台湾北部の主に2つのフィールド(低地帯、高山帯)で、動物や植物、昆虫を観察・採集(キャッチアンドリリース)するなどして本格的な生物相の調査、そして生態研究の現場を体験すると共に、研究者それぞれの専門分野の視点から、得られたデータの見方や考察の進め方についても指導、解説を受けました。加えて日台の高校生の交流の機会も多く設けられ、異なる文化的背景を有し、母国言語も異なる生徒たちの間で、相互理解とコミュニケーション能力の向上が図られました。

### 3. 主な活動内容 (今回のツアーで実施した様々な活動の中から、主なものをご紹介します)

#### (1) 生き物の調査及び観察

##### a. 日中の野外観察

低地帯の台北市立動物園や、標高約900mの東眼山などで、生き物の観察を行いました。野外観察では、日本では見ることのできない生き物に次々と出会えるので、ワクワクして仕方がありませんでした。また、生き物を見つけるたびに、その場で専門家の方が解説してくれるため、自分でフィールドを歩くよりも多くの知識を得られたので、すごく貴重な体験でした。



<日中に主に観察できた生物>

- ・キノボリトカゲなどの爬虫類  
スウィンホーキノボリトカゲ、キグチキノボリトカゲは、ツアー中、一番頻繁に見かけた生物です。6日目には、植生調査を実施し、胃の内容物を見ることができました。キノボリトカゲが普段食べている昆虫類のほか、寄生虫も入っていました。
- ・ハラビロトンボ、タイワンオオシオカラトンボ、ハナカマキリの仲間（木の皮に擬態する）、ムラサキマダラなどの昆虫類
- ・オオショロウグモなどのクモ
- ・ゴシキチョウ・コジュケイなどの鳥類

b. 夜間観察

夜の森を歩いて夜行性の生き物を観察しました。見られる生き物が昼間とは全く違っていました。夜の森で、ここまでじっくりと生き物を見たのは初めてだったので、普段ほとんど見たことのないような生き物も間近で見ることができ、すごくいい経験になりました。

<夜間に主に観察できた生物>

- ・タイワンアオハブ…毒があります。
- ・タイワンククリヘビなどヘビを中心とする爬虫類
- ・アマビコヤスデ…東眼山の森にうじゃうじゃいました。アーモンドのような匂いと色をしています。どうでもいい話ですが、私たちのツアーのメンバーのあいだで、このアマビコヤスデの台湾名「馬陸（マールー）」がなぜか大流行しました。夜の森の中で意味もなく「マールー、マールー」と連呼しながら歩いたことも大切な思い出です。
- ・ライトトラップに集まる昆虫類  
（ガ、カブトムシ、ツユムシなど）
- ・さまざまな種類のカエル



c. コウモリの観察

森の中のコウモリの通り道にハーブトラップ（コウモリの通り道にハーブの弦のような細い糸を張り、そこに飛んできたコウモリを引っかからせ、下の捕獲袋に落とす仕掛け）を設置し、捕獲したコウモリを観察しました。今回観察できたのはテングコウモリ、キクガシラコウモリ、クロアカコウモリの3種類。参加者のほとんどはコウモリを間近で観察することが初めてだったので、みんな興味津々でした。

d. 植物の観察、標本作り

台湾の気候は日本と異なり亜熱帯のため、日本の本州では見られない植物をたくさん観

察することができました。また、今回のツアーの実施場所である東眼山と台北市では、それぞれ標高がまったく異なるため、観察できた種類に大きな違いがありました。

また、東眼山滞在中に、みんなで標本採集をしました。参加者のほとんどは標本採集が初めてで、標本作りに関するさまざまなノウハウを知ることができました。

<台北市内（低地帯）>

- ・マングローブ植物 今回のツアーでは台北市郊外の淡水にある、台湾最大のマングローブを見学することができました。オヒルギ、メヒルギなど、日本の本州ではまず見られない植物たちが辺り一面に生えていました。
- ・クワ科イチジク属の植物 大木が気根を垂らしている姿が圧巻でした。
- ・銀葉樹 ・ヒカゲヘゴ

<東眼山（標高 900メートル）>

- ・イヌビワ イヌビワコバチという蜂と複雑な共生関係にあります。
- ・タイワンスギ 日本の杉と違い、枝が枝垂れます
- ・野生のバナナ 普段食べるバナナと違い、種がいっぱい
- ・タイワンヒノキ よく見かけた針葉樹。首里城の建材です（燃えたけど）
- ・コケ類

(2) 高校生どうしの交流

最初の方はお互いの母国語もまったく分からない状態で、みんな緊張気味でした。1日目の食事はひたすら沈黙でした。しかし、台湾語の「きらきら星」を教えてもらったり、日本の福笑いを一緒にしたり、片言の英語でコミュニケーションをとったりしているうちに、だんだん打ち解けあっていき、最後のお別れでは涙ぐんでいる人がたくさんいました。

スマホの翻訳機能もすごく役に立ちました。台湾の高校生が、僕たちにチョウの生態を教えるために、必死でスマホの翻訳を検索したり、わかりやすい英単語はないかみんなで相談したりしてくれていたのが、とても嬉しかったです。相手と仲良くなりたいという気持ちが強ければ、言葉が分からなくてもお互い分かり合えるというのは本当なんだなと思いました。

4. まとめ

今回のツアーで、私たちはたくさんのもので得ることができたと感じています。

まず、このツアーには専門家の先生が同行してくださっていたので、フィールドの、生の状態で知識を得ることができました。今まで知らなかったさまざまな研究の手法も、ツアーの中で実際に体験することで学ぶことができました。

さらに、自分の興味の幅を広げることができたのも、今回のツアーで得た大きな収穫の1つです。ツアーのメンバーの



ほとんどは、「植物」「カエル」「鳥類」など、もともと興味を持っている生き物が特定されていたのですが、台湾に行き、多種多様な種類の生き物に出会い、研究者の方からさまざまな知識を教えていただいたことで、今まであまり知らなかった分野の生き物の面白さにも気がつくことができました。

台湾の高校生との交流でも、文化や言語が違う人たちと5日間生活を共にすることで、自分たちのコミュニケーション能力を上げることができたと思います。

また、このツアーでは、好きなことが一緒に、素晴らしい仲間とも出会うことができました。みんなで部屋でトランプをしたり、虫を追いかけるのに夢中になったり……すべてが、一生の思い出、一生の宝物です。これを糧に、高校生それぞれが成長していければと思います。

